

# 県青少年読書感想文コン 入賞作品

あなたにとって「自分」とは何ですか。振り返ってみると、周りに流されることも多かった私は「自分」というものを強く意識したことがあまりなかったように思いますが、おそらくそれは、「自分」のことと、人とは違つて何かを持ってい

時代には、黒人が書いた黒人についてだけの本を売る、黒人のための本屋を開きます。なぜ黒人が奴隷となつて民族として顧みられなくなったのか。それは、白人の支配のせいだけではなく、黒人が自分自身を知らなかった、と彼は言います。よって、次に何をすれば

## 「自分」を持つこと



山梨英和高校1年 小林 葉南さん

ることだと思つていたからです。皆と違つては、「自分」を持つことである一方、同時に孤独にもなることであり、私にとつては、とても怖いことでした。

自分達のことを自分達で考えるためには、知識が必要で、黒人は白人に自由を奪われ、自分達の文化的伝統や歴史的背景について何も知りませんでした。自分は何者なのか、それさえも。ルイス

良いかも分かります。その知識すら与えられていなかった黒人に、ルイスは最初の一步、つまり知識を与えました。その書店は、黒人達にとって自分のことを知るための場となり、訪れる人達は、

みに気付かずにはいまま。それどころか、勉強はやらされていくことだと考へるようになります。

のとの関係性を見つめ、進んでいくことだと考へるようになります。

「君たちはいつも、私たちに、と言うが、それではだめだ。大事なことは、一人の人間として君が何を

は、友人と異なつた意見を持たせ、また、そのような関係性が広がったとき、差別の問題と結び付くのだと思います。互いを尊重し合いながら、それぞれの自分を見失わずにいることは、とても難しい

この本は、今もなお問題を抱える黒人差別を背景としています。ルイス

は、黒人がただ虐げられるだけの存在にならない

ために、学ばなければ

毎日のように様々な議論を重ねました。彼らは、

程の一つです。私は、学校で様々なことを学んで

私達は、どうすれば黒人の力を得るのか、と尋ねた白人の学生に

「切り倒されているのに黙つて立っているのは樹木だけだ。」とルイスは言います。ルイスや黒人達が自分の未来を切り拓いたように、きっと

黒人差別が白法とされた

そのために、この書店

「知識こそ力だ。」ル

いいます。それらは全て、

私

関係築くことにはなりま

原田勝一 訳 (あすなろ書

黒人差別が白法とされた

そのために、この書店

「知識こそ力だ。」ル

いいます。それらは全て、

私

関係築くことにはなりま

原田勝一 訳 (あすなろ書